資料２

海津市公共交通の概要・現況

１．市の施策における公共交通の位置づけと方向性

（１）まちづくりの基本方向

市の総合開発計画基本構想（2007～2016）において、海津市の将来像を次のように設定しています。

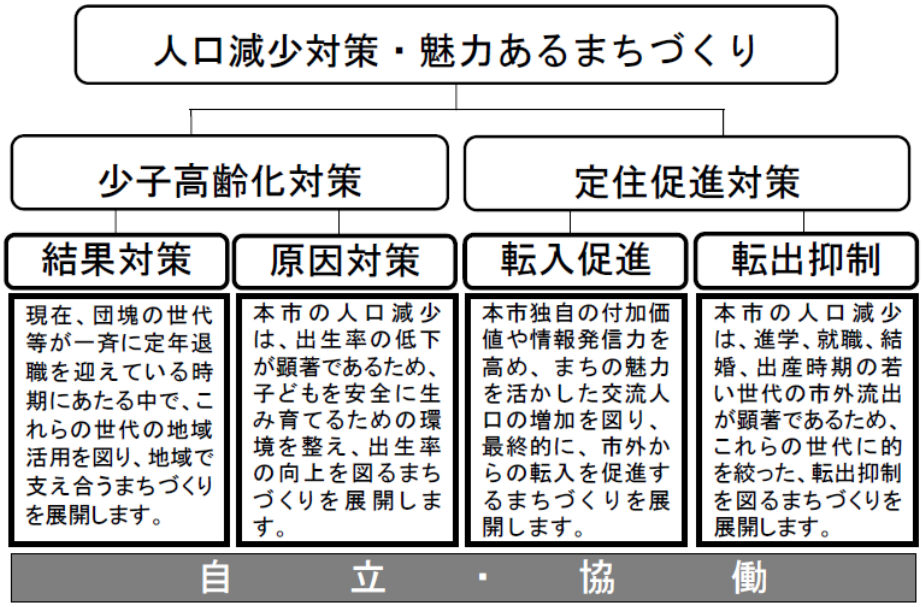
協働が生みだす 魅力あふれるまち 海津

※「協働」とは、市民と行政とが対等な立場で責任を共有しながら目標の達成に向けて連携するものであり、市民の主体性がより発揮できるものです。

（２）公共交通の位置づけ

総合開発計画後期基本計画において、「人口減少に歯止めをかける」ことを本市の最重要課題としており、そのための重点プロジェクトである「転出抑制策」の一環として、公共交通の整備が位置付けられています。

＜戦略プロジェクト設定のフロー＞



○転出抑制策（一部）

名古屋市、桑名市、大垣市といった近隣都市との隣接性も考慮し、市外への通勤・通学条件の改善・支援、広域交通網の整備、コミュニティバスの広域連携に取り組みます。

（３）公共交通の方針と施策（後期基本計画）

《基本方針》

養老鉄道や路線バスの存続・充実を関係機関に要望します。

また、地域内のコミュニティバスを市民ニーズに合った運行体系とするよう努め、利便性向上を図ります。

《施策の内容》

①公共交通手段の確保

養老鉄道及び路線バスについては、沿線自治体と協力して運営補助を継続するとともに、関係市民と連携してイベント開催や各種切符の発行等を通して利用促進を図ります。

②公共交通の利便性の向上

養老鉄道の美濃津屋、美濃山崎、美濃松山の3駅のトイレ及び駅舎、駅周辺広場及び道路については、引き続き地元自治会や地域のボランティアと連携・協働し、快適に利用できるよう管理していきます。

市民の利用状況及び要望事項等を踏まえて適切に路線・運行時間・運行方法等の見直しを行い、市民のニーズに合ったコミュニティバスの運行体系を確立し、利便性の向上に努めます。

《成果指標》

成果指標		単位	平成 22 年（計画従前値）	平成 28 年（計画目標値）
市民アンケート調査で、「公共交通機関（電車・バス）」の便利さ」について、不満と回答した市民の割合		%	59.1	30.0
指標の説明又は値の計算式	80 対 20 の法則により、10 年かけて不満を 20%まで下げる目標とし、5 年ではその中間の値とする。			
コミュニティバス年間乗客数		人	140,312	140,000
指標の説明又は値の計算式	人口減少の折、現状維持に努める。			

２．公共交通の概要

（１）鉄道（養老鉄道）

地域の基幹的な公共交通を担っている養老鉄道の利用者は、平成３年度をピークに年々減少し、平成24年度の利用者数は約622万人となっています。

本市内には、美濃津屋、駒野、美濃山崎、石津、美濃松山の5駅が設置されており、1日の鉄道利用者は約2,700人ですが、年々減少傾向にあります。

利用者の多くは通勤・通学者であり、養老鉄道は市民の重要な交通手段としての役割を担っており、廃線となった場合の影響は大きく、したがって今後も存続していくための必要な施策を実施していくことが求められます。

図　養老鉄道の輸送人員の推移

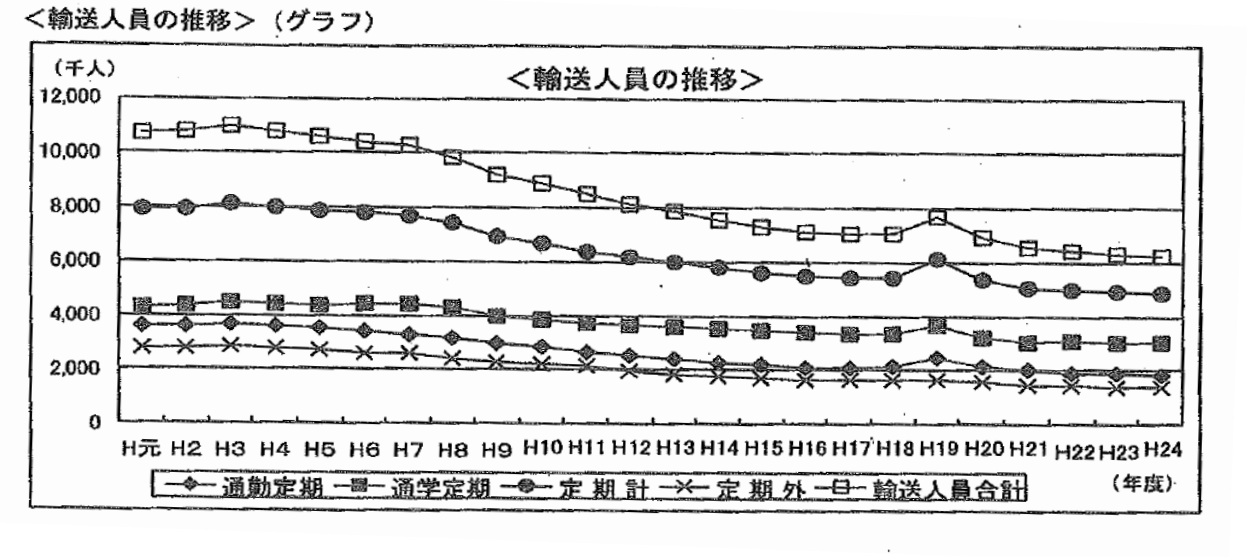
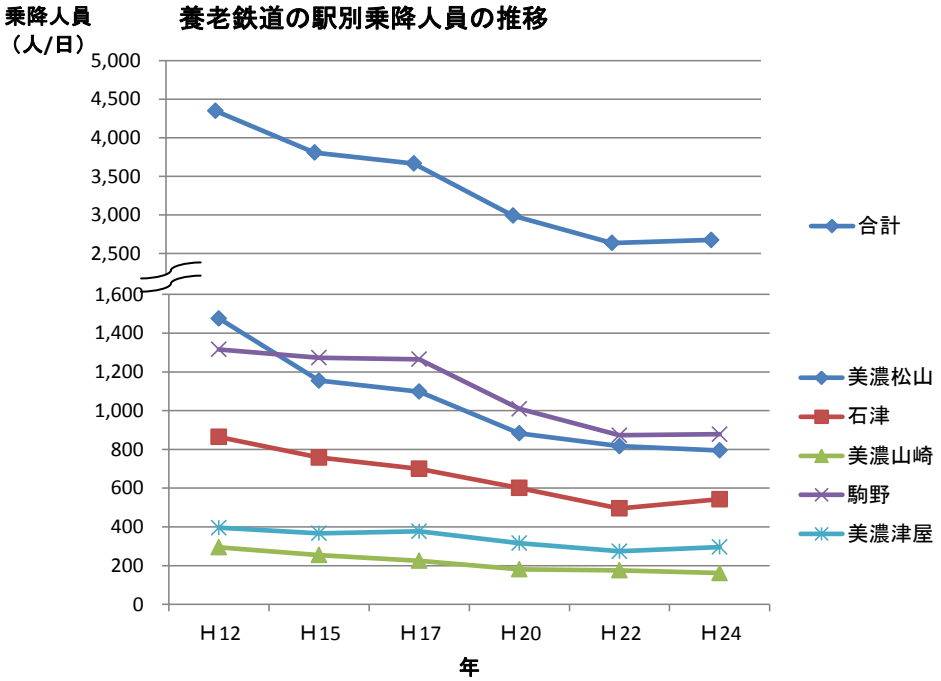


図　海津市内駅別乗降人数の推移



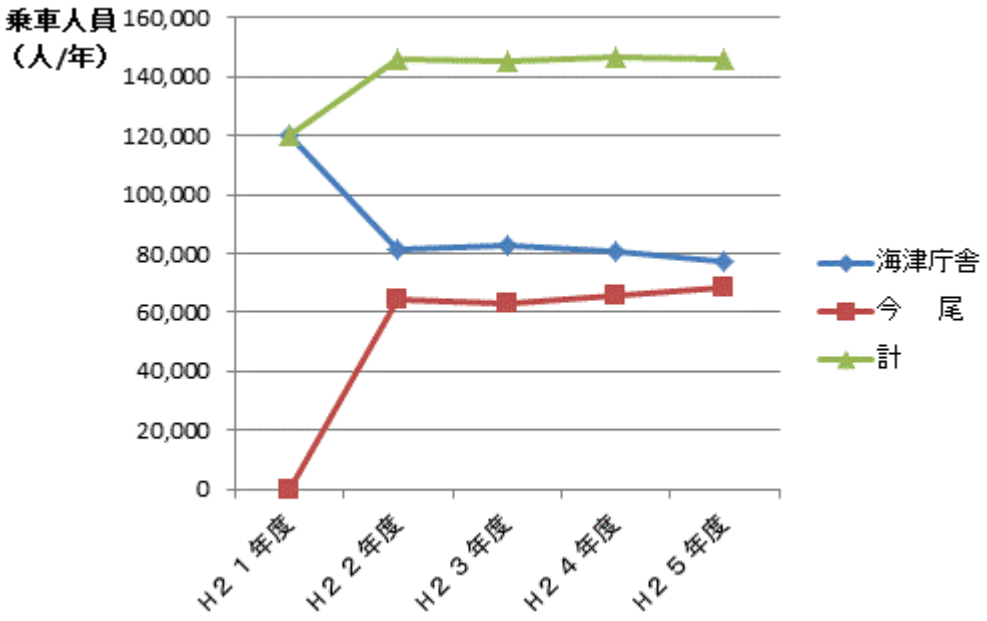
（２）名阪近鉄バス

名阪近鉄バス海津線は、海津・平田町地内と大垣市内を結ぶ唯一の路線バスです。

近年、利用者は年間 14 万 6 千人程度で横ばいです。

養老鉄道同様、通勤・通学者や自動車を持たない・乗れない市民にとっては必要不可欠な交通手段であり、引き続き存続のための支援をしていく必要があります。

図　名阪近鉄利用者の推移



	乗 車 人 員（人）			備考
	海津庁舎	今　尾	計	
H21年度	120,398	―	120,398	大垣駅前～高須
H22年度	81,605	64,558	146,163	平成21年10月より海津庁舎へ延長 今尾系統新設
H23年度	82,835	62,601	145,436	
H24年度	80,823	65,964	146,787	
H25年度	77,320	68,519	145,839	

（３）コミュニティバス

現在、コミュニティバスは全8路線18系統で運行しており、年間14万６千人が利用しています。

今後、ますます高齢社会が進行することから、高齢者等の交通弱者のニーズに合った運行経路の見直しを行い、更なる利用促進を図り、利便性の向上に努めていく必要があります。

【コミュニティバスの概要】

●運賃　大人（高校生以上）・・・１００円
小・中学生・・・・・・　５０円
市内６５歳以上の方で海津市発行の高齢者身分証明書を呈示された方・・５０円
小学生未満・・・・・・・無料
障がい者の方で障害者手帳を呈示された方／その介助者・・・・各５０円
（介助者１名まで５０円）

乗車券　１枚１００円券、５０円券

回数券　１００円券（１１枚綴り）・・・１，０００円
５０円券１１枚綴り・・・・・・　５００円

定期券　通学定期　１ヶ月７５０円　２ヶ月１，４５０円　３ヶ月２，１００円
通勤定期　１ヶ月３，６００円　２ヶ月７，０５０円　３ヶ月１０，２５０円

キッズパスポート（養老線（美濃松山駅～美濃津屋駅）と海津市コミュニティバス全線が１箇年乗り降り自由となる定期乗車券）
対象者：義務教育課程にある学校に通学する児童・生徒
発売額　５，０００円（養老鉄道 4,000 円、スイトトラベル 1,000 円）

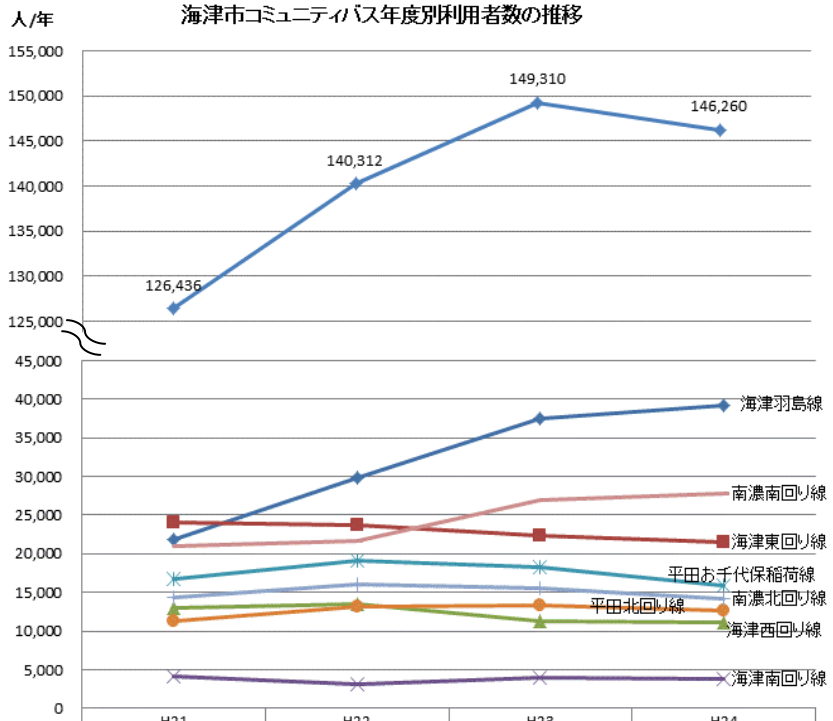
●車両台数と運行本数

路線	車両台数	運行本数
海津羽島線	１台（定員２３人乗り）	平日１５本・休日１０本
海津東回り線	１台（定員４８人～５２人乗り）	平日７本　休日５本
海津西回り線	１台（定員４８人～５２人乗り）	平日８本　休日７本
海津南回り線	１台（定員４８人～５２人乗り）	平日５本　休日４本
平田お千代保稲荷線	１台（定員２１人乗り）	平日１４本　休日１１本
平田北回り線	１台（定員２１人乗り）	平日９本　休日７本
南濃北回り線	１台（定員２１人乗り）	平日８本　休日７本
南濃南回り線	１台（定員２１人乗り）	平日９本　休日５本

【コミュニティバスの利用状況】

(1) 利用者数の推移

・平成 24 年度から、利用少数便 9 便を廃止したことにより、利用者数は減となりました。H24 年度は 146 千人/年　対前年比 2.0%の減で、路線により増減が異なります。



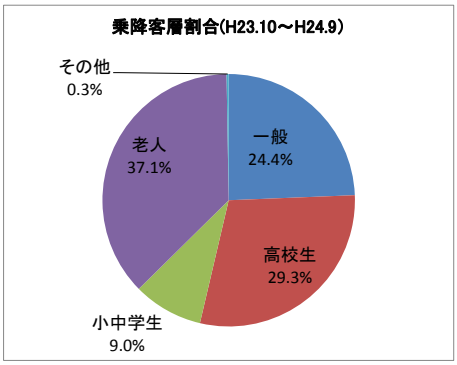
	H21	H22	H23	H24
海津羽島線	21,914	29,825	37,427	39,273
海津東回り線	23,983	23,670	22,354	21,523
海津西回り線	12,978	13,492	11,338	11,185
海津南回り線	4,139	3,170	4,032	3,789
平田お千代保稲荷線	16,809	19,178	18,297	15,803
平田北回り線	11,251	13,189	13,288	12,636
南濃北回り線	14,431	16,104	15,608	14,240
南濃南回り線	20,931	21,684	26,966	27,811

(2) 客層別利用状況

・老人 37.1%が最も多く、次いで高校生が 29.3%、一般が 24.4%です。老人の利用者は、海津温泉が一番多くなっています。

・対前年比でみると、全体では、高校生、小中学生が増加し、一般と老人の利用が減少しています。

一般　　対前年比　13.4%の減
高校生　対前年比　13.8%の増
小中学生　対前年比　2.3%の増
老人　　対前年比　5.1%の減



(3) バス停別利用状況

・岐阜羽島駅、今尾、馬目西方、海津庁舎、海津温泉、医師会病院、海津明誠高校口、城跡公園前、駒野駅及び石津駅の 10 バス停では、年間乗降客 1 万人を超えています。一方、高田バス停等 37 バス停は年間 100 人未満です。

(3)　公共交通の費用負担

海津市では、平成 24 年度には公共交通（養老鉄道、名阪近鉄バス、コミュニティバス）に約１億３千５百万円の費用を負担しています。

海津市人口（平成 25 年４月１日現在、37,740 人）１人あたり、年間 3,580 円の費用負担となっています。

①公共交通に対する海津市の負担金等一覧（歳出）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
コミュニティバス	111,810,000	104,220,000	104,220,000	93,625,000	委託費
名阪近鉄㈱バス	－	555,851	1,411,654	1,153,692	補助金（強制負担分）
〃	－	3,713,000	4,587,000	4,402,000	〃　（任意負担分）
養老鉄道㈱	51,310,000	51,310,000	52,329,000	52,930,000	補助金
計	163,120,000	159,798,851	162,547,654	152,110,692	

②コミュニティバス運行に対する負担金、補助金（歳入）

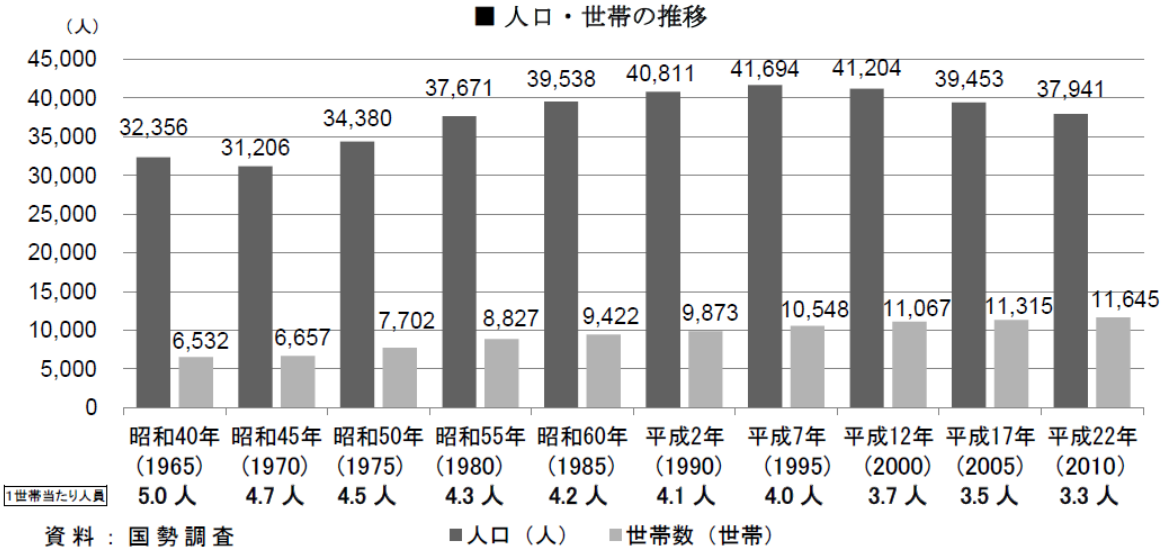
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
羽島市より運行経費負担金	801,798	664,922	652,503	1,018,846	
県補助金	19,329,000	18,525,000	18,859,000	16,127,708	
計	20,130,798	19,189,922	19,511,503	17,146,554	

①－②＝	142,989,202	140,608,929	143,036,151	134,964,138

《参考資料》

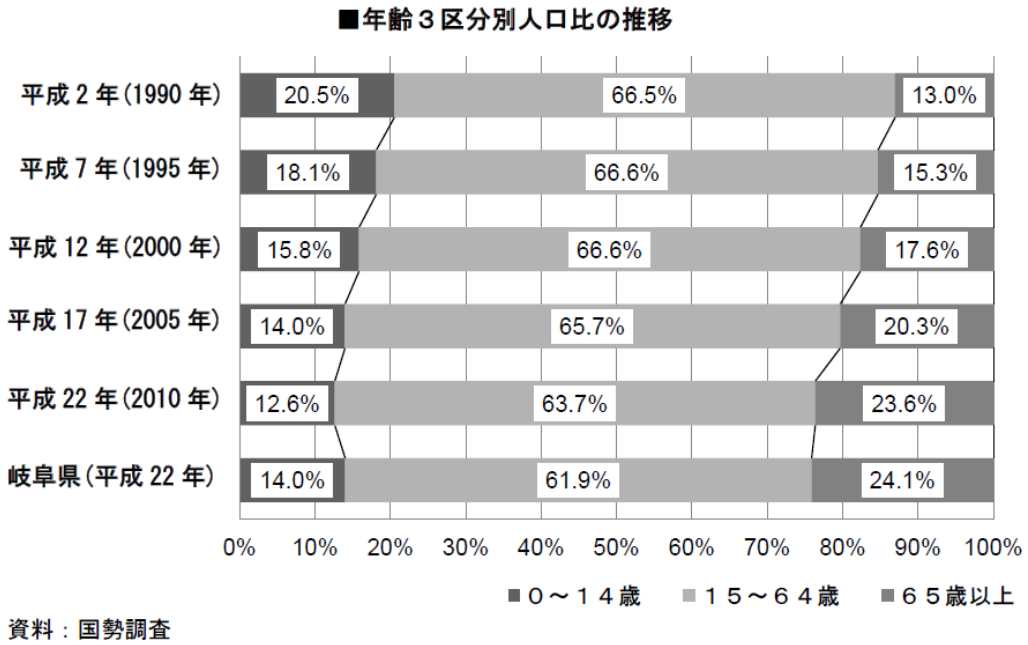
１．人口の推移

平成22年(2010年)の国勢調査によると、本市の人口は37,941人となっています。昭和40年(1965年)からの推移をみると、昭和45年(1970年)から平成7年(1995年)までは増加傾向にありましたが、その後は減少に転じています。平成22年の人口は、平成7年の調査ピーク時に比べて約9.0%減少しています。



２．少子高齢化の状況

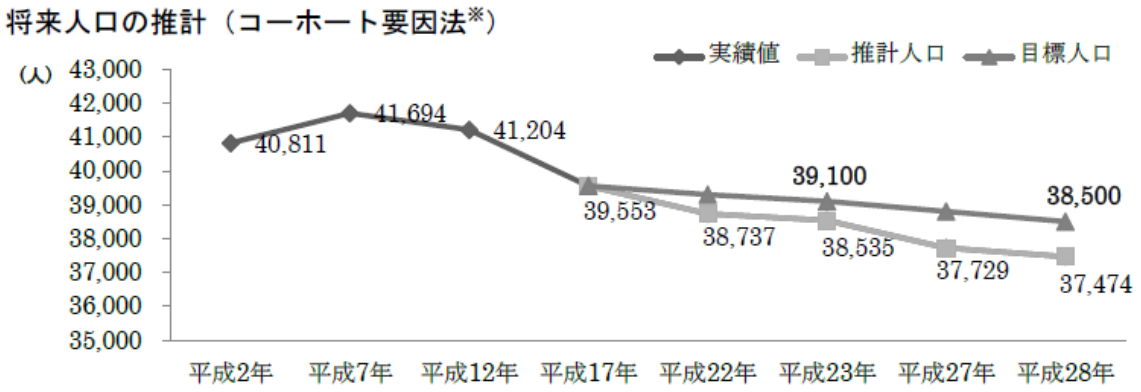
本市の人口に占める０歳～14歳までの年少人口は年々減少傾向にあり、平成22年(2010年)の国勢調査では12.6%と岐阜県の平均よりも低くなっています。逆に、65歳以上の高齢者の割合は年々増加しており、23.6%で５人に１人以上が高齢者という状況であり、本市においても、少子高齢化は確実に進んでいます。



３．将来人口（総合開発計画基本構想による）

本市の人口は、現状のまま推移すれば、平成17年の39,553人（国勢調査速報値）から平成28年には37,474人に減少すると推計されます。

人口の減少は、出生率の低下だけではなく、若年世代の市外流出により、いっそう深刻化している状況にあります。しかし、人口減少に歯止めをかけることが最重要課題と捉えて、市内で働くことのできる雇用機会の創出、市街地整備の推進、交流基盤の整備促進、若年家庭が市内で安心して子どもを生み育てられる子育て支援サービスや教育環境の充実、また住宅開発など総合的なまちづくりを推進し、目標年である平成 28 年における目標人口を 38,500 人とします。



４．主要施設

市内には、海津庁舎、平田庁舎、南濃庁舎の３庁舎がありますが、統合庁舎の整備（平成 26 年 4 月～移転を開始）により、現海津庁舎（統合庁舎）と支所（海津市文化会館（南濃町）及びやすらぎ会館（平田町））の体制になります。

本市は、「国営木曽三川公園」、「千代保稲荷神社」、「海津温泉」、「水晶の湯」「クレール平田」「月見の里南濃」などの観光資源に恵まれ、年間の入込客数は 650 万人を超え、県内屈指の観光都市となっています。

図　　主要施設、観光施設図（市の観光パンフレット）